

寄って傷に油とぶどう酒を注ぎ、包帯をして、自分のろばに乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。そして、翌日になると、デナリオン銀貨二枚を取り出し、宿屋の主人に渡して言った。『この人を介抱してください。費用がもっとかかったら、帰りがけに払います。』さて、あなたはこの三人の中で、だれが追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか。」律法の専門家は言った。「その人を助けた人です。」そこで、イエスは言われた。「行って、あなたも同じようにしなさい。」

【奨励者からのメッセージ】「多様性と信仰——原理主義 VS 普遍主義」

いよいよキャンパスにも雪の季節が到来しました。雪に閉ざされた冬は親しき友と（勿論恋人とでも良いです）議論したり、一人静かに人生を考えるチャンスでもあります。神さまは、この世界に多様な物質、多様な生命を生み出し、その多様な物質と生命が織りなす多様な現象を与えてくれました。その多様性を保証している本質は何でしょうか？ それは普遍性です。多様性を尊重する社会は、多様性の下に隠れている共通性（普遍性）への”深い理解”なしでは実現されることはない、私は信じています。

今回の奨励では、キリスト教における神の子イエスご自身が私たちに伝えて下さった神の御言葉としてのその普遍性にに基づき、私なりの信仰の普遍性と多様性についてお話し出来ればと思います。

【宗教改革 500 周年】

宗教改革は 1517 年 10 月 31 日にマルティン・ルターがヴィッテンベルク城教会に「95 箇条の提題」を掲示したことに始まります。ルターは自らが修道士を務めるローマ・カトリック教会の在り方に疑義を呈し、「聖書のみ」(sola scriptura)「信仰のみ」(sola fidei)「恩寵のみ」(sola gratia) という宗教改革三大原理を掲げて改革の狼煙を上げました。1521 年にルターはカトリック教会から破門され、独自の道を歩むことになり、プロテスタント教会が誕生しました。「プロテスタント」(Protestant) という呼称はカトリック側から「抗議する者」と批判された呼び名に由来し、プロテスタント側は「福音主義教会」(Evangelische Kirche) と自称しました。なお、現在カトリックとプロテスタントは歴史的な和解を遂げています。

【次回の大学礼拝】2017 年 11 月 7 日（火）10 時 40 分

次回の奨励はキリスト教学の高橋優子先生にご担当いただきます。

【前回の大学礼拝】2017 年 10 月 24 日（秋期キリスト教教育強調週間）
学生 395 名 教職員ほか 14 名 合計 409 名

【大学礼拝週報】 2017年度 第21号（後学期第6号）

2017 年 10 月 31 日（火）午前 10 時 40 分

酪農学園大学 黒澤記念講堂

宗教改革 500 周年記念礼拝

《大学礼拝》

司 式 小林昭博（キリスト教学教員）
奏 楽 佐藤理恵（野幌教会会員）
讃美指導 相原晴伴（循環農学類教員）

前 奏 「主なるキリストよ、われらにみ心をかけ給え」(J.C.バッハ)
讃美歌 讃美歌 453 番（きけやあいのことば）
聖書 ルカ福音書 10 章 25 節－37 節
祈り
さんび 酪農学園大学聖歌隊
奨励 「多様性と信仰——原理主義 VS 普遍主義」 矢吹哲夫
（環境共生学類生命環境物理学研究室教授）
報告
讃美歌 讃美歌 338 番（主よおわりまで）
後 奏 「汝の道を示したまえ」（ゲーテ）

【本日の聖書】ルカ福音書 10 章 25 節－37 節

すると、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスを試そうとして言った。「先生、何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか。」イエスが、「律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか」と言われると、彼は答えた。『心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』とあります。」イエスは言われた。「正しい答えだ。それを実行しなさい。そうすれば命が得られる。」しかし、彼は自分を正当化しようとして、「では、わたしの隣人とはだれですか」と言った。イエスはお答えになった。「ある人がエルサレムからエリコへ下って行く途中、追いはぎに襲われた。追いはぎはその人の服をはぎ取り、殴りつけ、半殺しにしたまま立ち去った。ある祭司がたまたまその道を下って来たが、その人を見ると、道の向こう側を歩いて行った。同じように、レビ人もその場所にやって来たが、その人を見ると、道の向こう側を歩いて行った。ところが、旅をしていたあるサマリア人は、そばに来ると、その人を見て憐れに思い、近